

西日本小学児童におけるアレルギー疾患 有症率調査 1992、2002、2012年の比較

出典 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)27巻2号 Page149-169(2013.06)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014016402>)

著者 西間三馨 他

調査地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、
山口県、兵庫県、香川県

調査時期 2012年

調査対象 小学生(6~12歳)

依頼数 35237人

有効回答率 96.2%

診断方法 自己申告(医師診断)

有症率	食物アレルギー	3.6%
	アナフィラキシー	0.8%

男女別有症率	食物アレルギー	男:3.9%、女:3.2%
	アナフィラキシー	男:0.9%、女:0.7%

調査概要 西日本11県の同一小学校を対象に同一手法によるアレルギー疾患の有症率の
経年変化を調査した論文。アトピー性皮膚炎は減少し、喘息は横ばいであった
が、他は増加していた。食物アレルギーは2012年に初めて調査された。